

新医学系指针对应「情報公開文書」改訂フォーム

## 研究協力のお願い

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

インドシアニングリーン videoangiography 全撮影領域における輝度解析による  
浅側頭動脈-中大脳動脈バイパス術後過灌流症候群予測法の開発

### 1. 研究の対象および研究対象期間

2012年1月～2018年9月に当院で浅側頭動脈-中大脳動脈バイパス術を受けられた方

### 2. 研究目的・方法

浅側頭動脈-中大脳動脈（STA-MCA）バイパス術は、アテローム硬化性脳血管疾患やもやもや病における脳卒中発症を予防するために一般的に用いられているが、術後合併症の1つに過灌流症候群がある。これまで single-photon emission computed tomography、visual light spectroscopy、laser Doppler flowmetry や thermography、そして indocyanine green (ICG) videoangiography などの方法論を用いて脳血流動態を解析し、過灌流症候群のリスクを評価した報告は散見されるが、未だ過灌流症候群の予測法として簡便化・普遍化されたものはない。また、これまでの ICG videoangiography の解析研究では、標的血管の特定の関心領域（ROI）を設定することが慣習的であったが、対象血管の動脈血供給と静脈血排出が解剖学的・機能的側面から完全に一致しているとは限らないために、ROI として設定された動脈と静脈が、脳の局所領域における血液流入・流出状態を真に反映していない可能性も考えられる。我々の施設では、浅側頭動脈動脈-中大脳動脈（STA-MCA）バイパス術施行時に全例において、前頭葉と側頭葉がほぼ均等に露出される universal 開頭を行っており、露出された脳表全域が含まれるよう ICG videoangiography を撮影している。そこで後方視的に、ICG videoangiography 全撮影領域における輝度解析を行い、過灌流症候群の予測に有用な指標が得られないかを検討する。症例の収集・解析は昭和大学病院 脳神経外科学講座が担当する。

### 研究期間

「医学部 人を対象とする研究等に関する倫理委員会」承認後、昭和大学病院 病院長の研究実施許可を得てから 2019年11月まで

**3. 研究に用いる試料・情報の種類**

情報：年齢、性別、病歴

データ：手術中に顕微鏡を用いて撮影された (ICG) videoangiography

**4. お問い合わせ先**

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学医学部脳神経外科学講座                      氏名：佐藤 洋輔

住所：142-8666 東京都品川区旗の台 1-5-8                      電話番号：03-3784-8605

研究責任者：

所属：昭和大学医学部脳神経外科学講座                      氏名：佐藤 洋輔